



ippo(いっぽ)

【研究主題】 キャリア教育の視点で小・中・高を貫く教育課程の編成
～学部間をつなぐ仕組みを活かした取組～

高2・3のワーキンググループに、今年度は実習先事業所の方々に加わっていただき、卒業後の自立と社会生活という視点から、授業参観や意見交換を重ねていきます。

ご協力いただく方は、次の3名です。

- ・株式会社北上の郷 就労支援センターこまち 管理者 保坂 淳 氏
- ・ウェルビューいずみ障害者就業・生活支援センター 主任就業支援員 牧野 真悟 氏
- ・秋田障害者職業センター 障害者職業カウンセラー 石井 正博 氏

第1回目の授業参観を夏休み前に実施し、感想や御意見をいただきましたので紹介します。

Q. 将来の社会生活に向け、在学中の生活で重視すべきポイント

- ・将来「教育」という枠を出ると、何かしらに所属して、他者（家族、友人以外）と関わりをもちながら生活していくこととなります。他者に対して行うべき礼節や態度を学ぶ場が学校生活のひとつですが、そのことだけでなく、自分が行う行動や言葉で相手がどのような印象を抱き、自分がどのように評価されるのか（見られているか）も大切ではないか。
- ・友達をたくさん作り、支え合う。（小）
- ・目標が決まりつつある時期。方向性を徐々に決める。（中）
- ・企業実習等を重ね、自分のいちばんを作る。

Q. 授業参観の感想

- ・家庭での生活習慣が如実に反映されている。（小）
- ・集団内では集団という安心感があるのでできているが、単独になるとどうなのか疑問。「はじめてのおつかい」的に、単独でやってみることも必要ではないか。（中高）
- ・仕事は大変⇒そこから、大変だから賃金がもらえるという逆の考えがあっても。（高）
- ・目、耳で確認し、実習での感想や反省の中で先生がワンクッションになっている。一般就労での定着支援です。（高）

Q. 卒業時に身に付けておくべき内容について

- ・ストレス処理。
- ・一人でできるイコール自立ではないという考え方。
- ・卒業後は学ぶことがたくさんある。在学中に、基本的なあいさつ等、目標時期を考えて。



小学部、中学部、高等部の授業をじっくりと参観していただきました。夏休み明けは、意見交換も行います。

